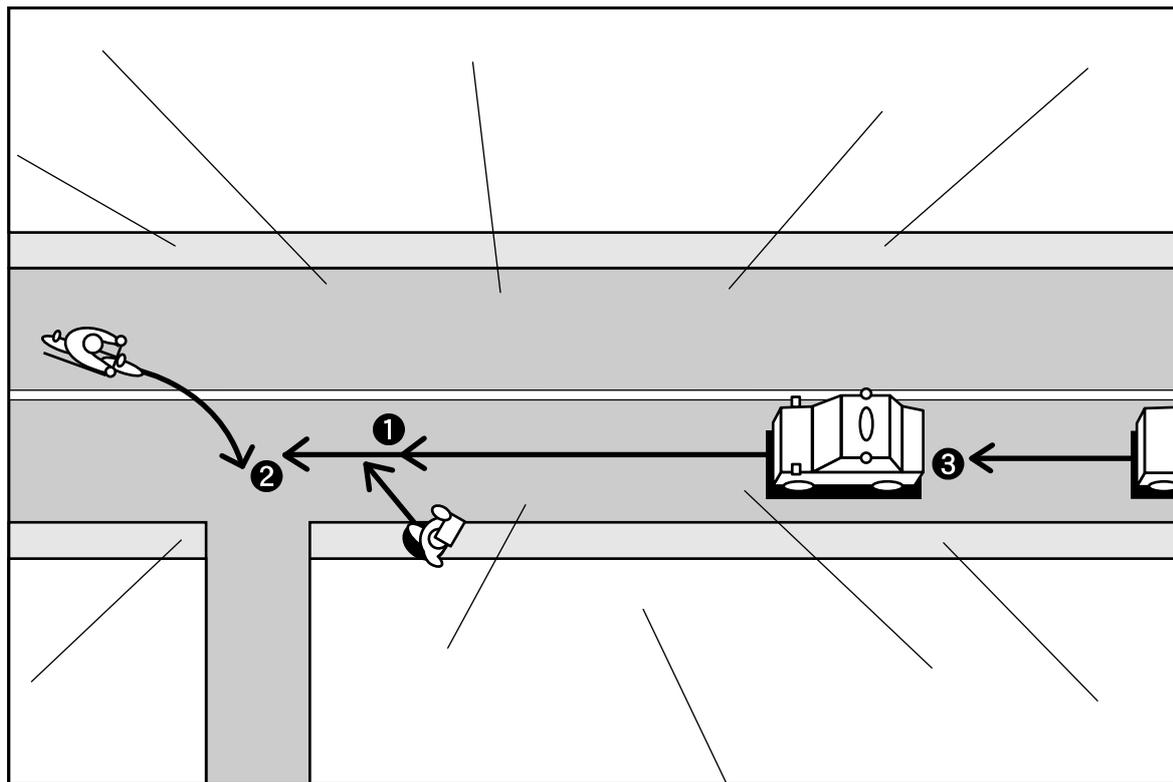


〔タクシー 4〕雨天時の走行



1．主な危険要因の例

- ① 雨が降り始めたので、左側の歩行者が先を急ごうとして道路を横断してくると、はねる危険がある。
- ② 雨が降り始めたので、対向車線の自転車も急いで脇道に入ろうとして右折してくると衝突する危険がある。
- ③ 道路を横断してきた歩行者や自転車のために急停止すると、後続車に追突される危険がある。

2．安全運転の例

雨が降り始めると、歩行者や自転車は先を急ごうとして強引に道路を横断するなどの危険な行動をとりやすいので、歩行者や自転車の動きには特に注意する。

雨が降り始めたらスピードを落として走行する。

3．乗務員指導のポイント

次のような雨天時の歩行者、自転車、二輪車の危険性について理解させる。

- ・傘を持たない歩行者や自転車は予測のつかない危険な行動をとることがある。
- ・傘をさしている場合でも、傘のために視界が悪くなり、安全確認が不十分となって車に気づかないことがある。
- ・二輪車は視線が下向きになりがちで、周囲の車に対する注意が不十分になることがある。

住宅街や商店街など歩行者や自転車、二輪車の多い道路では、それらの動きに十分注意し、スピードを落して走行するよう指導する。